



阪神高速湾岸線を神戸方面に走ると、尼崎末広インターの眼下に、工事中の巨大な建物が飛び込んでくる。

松下電器産業の合併会社、関西電力尼崎第3発電所跡地に建設を進める世界最大級のプラズマ・ディスプレイ・パネル(PDP)の新工場(4階建て、延べ14万7000平方メートル)だ。

昨年9月、950億円を投資して着工、今年11月の完成予定だった。北米市場などで伸びているプラズマテレビ販売に対応するため、2カ月早めて9月から稼働することになり、工事

松下PDP工場

ハイテク産業の拠点 尼崎で工事急ピッチ

9月の稼働に向けて、急ピッチで工事が進む「松下プラズマディスプレイ工場」

が急ピッチに進んでいる。

現在、松下のPDP生産能力は大阪府茨木市と中国・上海の工場で年間180万台(42型テレビに換算)だが、新工場は年間300万台以上を予定している。

世界市場は08年に1000万台を超えるとの予測もあり、尼崎工場で世界市場のシェア3割を狙う。

薄型テレビでは、プラズマと液晶の競争が激しい。シャープは三重県亀山市の工場で生産した液晶テレビを、量販店で「亀山ブランド」とPRしている。松下も「尼崎製のプラズマ」と宣伝すれば、尼崎のイメージも「重工業都市」から「ハイテク産業の拠点」へと変わるだろう。



はんしんびと

写真・文 山田哲也

1

阪神間の変わりつつある風景やユニークなスポット、普段は見逃されがちな街の魅力……。西宮市在住のカメラマン、山田哲也さんが歩きながら紹介する。

